

2019 年度前期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—キャリアセンター—

キャリアセンター長 山重 芳子

全学共通教育科目のキャリアセンター開講科目では、実施対象科目数9科目中すべての科目でアンケートが実施されました。授業全体に対する評価である、項目10「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は4.56と高い評価を得ています。

項目10と強い正の相関関係がみられたのは、項目9「この分野への興味・関心が引き起こされた」(相関係数:0.74)、項目5「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」(相関係数:0.62)、項目6「教員は教室内が学習に相応しい状態に保たれるよう心掛けた」(相関係数:0.62)、項目8「シラバスと授業の内容が一致していた」(相関係数:0.69)でした。適切に授業が運営されていると言えます。

用いられた授業手法に関するアンケート結果によると、グループワーク(回答率:65.0%)課題(61.2%)に加えて、質疑応答(29.1%)、ディスカッション(47.3%)、プレゼンテーション(41.4%)、が高い頻度で実施されていることが示されており、学生の積極的参加を促す授業が実施されていることがわかります。ディベート(11.4%)や問題解決型授業(11.4%)も実施されている点は、キャリアセンター科目の特徴でもあります。

授業を通じて身についた資質・能力に関するアンケートでは、「この分野の知識、学力」(回答率:67.1%)の他に「コミュニケーション能力」(54.4%)、「協働力」(35.0%)、「柔軟な発想力」(32.1%)について回答率が3割を超えています。キャリアセンター開講科目が多様な資質・能力を育成するきっかけになっていると考えられます。「課題発見力」(20.7%)、「課題解決力」(22.4%)、「人脈形成力」(24.1%)「統率力」(17.3%)などについても、大学全体と比較して回答率が高く、リーダーシップや行動を促す授業活動が実施されていると言えるでしょう。

一方で、「1回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均の時間(h)は・・・」という質問に対し、「ほとんどしていない」あるいは「30分未満」と回答した受講者は合わせて62.3%と昨年度後期よりも高くなっています。事前・事後学習への取り組みが改善されると、授業での主体的な学びがより深まる余地が残されています。